

# 平成 28 年度 第 2 回 富士市食育推進会の報告

平成 28 年 10 月 13 日  
午後 1 時 15 分～3 時 15 分  
市役所庁舎 8 階第 2 会議室

文責：小櫛和子  
委員 9 名出席（15 名）

1. 開会
2. あいさつ 青柳保健部長
3. 報告事項

## (1)平成 28 年度 食育推進上半期活動報告

### (ア) 第 8 回富士山おむすび計画年代別ふだんの食育弁当コンテスト応募状況

小学生	19
中学生	1,499
高校生	404
大学生	98
一般	13

☆中学生の応募が多いのは、夏休みの宿題として協力してくれる学校があった。

☆夏休みは、特に一人で食事をする機会が増える中学生を対象とした。

### (イ) 平成 28 年度小中学校栄養調査の概要

食事習慣質問票を用いて、調査時点の最近 1 か月の食事の内容を答えてもらうことにより、個人及び所属集団の栄養・健康状態を明らかにする。

調査数	富士第二小学校（5 年生）	92 人
	富士南小学校（5 年生）	145 人
	富士南中学校（1 年生）	256 人
	富士川第一中学校（1 年生）	66 人

調査結果

- ・食塩 ・脂肪の過剰摂取。
- ・野菜不足。鉄分不足（特に中学生女子の約 8 割が不足）

PTA と連携して正しい食べ方を伝える食育講座などの開催。

### (2)食育キャラクター「むすびん」の活動について

## 4. 協議事項

### (1)平成 29 年度 食育推進事業（案）

#### (ア) 第 3 次富士市食育推進計画策定事業について

国の「第 3 次食育推進基本計画」及び静岡県「第 3 次静岡県食育推進課計画」を踏まえ、平成 31 年度から平成 35 年度までを計画期間とした「第 3 次富士市食育推進計画」を策定する。

策定は平成 29 年度～30 年度の 2 年間とする。

「富士市食育推進会議」を中心に、庁内組織「食育推進計画策定委員会・ワーキンググループ」により策定する。



(意見)

- ・第3次計画となるので、国や県の方針を踏まえて、富士市らしい計画にしたい。
- ・富士市には「食育推進室」があるので、今まで以上に、各課で行われている食育推進事業の連携が図れるといい。

モデル校での「栄養調査」は、総括的な指導だけでなく、特にモデル校の健康に問題を抱えている生徒への個別指導にも役立てられるといい。

- ・地域の連携や、多様なくらしに対応した食育の視点で「子ども食堂」の取組を富士市の計画に盛り込んでほしい。
- ・富士市では、学校給食を中心とした食育の取組が進んでいるので、今以上に連携を進めてほしい。

(イ) 第9回食育弁当コンテストについて

目的： 弁当コンテストの応募を通じ、中学生～大学生が、自分に必要な栄養素や食事バランスについて考える機会を作る。

- ・自分の健康を考えて作るお弁当
- ・自分で作れる、誰でもできるお弁当

(意見)

- ・対象を中学生～大学生にしぼって、目的も「お弁当を作ることで自分の健康を考える」とする方向にしていくことは大賛成。チラシにも、その目的がわかるように入れてほしい。

(小学生は、類似した別のコンテストがあるので入れなかった)

- ・対象が学生で、作品の優劣を競うコンテストではないので、応募の条件の4、5の表現（著作権、権利などの表現）を再考してほしい。
- ・富士市全体の中学校で取り組めるように、校長会でも話をしたい。
- ・応募資格を「富士市在住・在学」としないで、全国のどこからも応募できるようにしたら、市内外へアピールできるのではないかな。
- ・限られた予算であるなら、表彰の賞品を減らしても、応募した子への参加賞を応募者全員に渡してほしい。
- ・「食育弁当コンテストレシピ集」は、応募した子ども達に配布するとか、有効に使われる配布先を考えて印刷してほしい。
- ・レシピの作り方や食材名、分量など、レシピ集にのせられないものをホームページに載せるなどホローできるといい。
- ・広告を企業や事業所からとって、チラシやレシピ集に載せると、PR効果があり、財政的にも助かるのではないかな。

(アドバイザーの富士農林事務所地域振興課より)

- ・昨年度の「高校生の和の給食メニューコンテスト」などをみると、富士市は県内でもトップクラスだった。富士市では「富士市学校給食地場産品導入協議会」があり、官民一体となって、地域の農業を応援し、地場の野菜を使うことで子ども達の心も豊かにする取り組みを行っている。これらは県内でも高く評価されている。